

令和8年度 全国学力・学習状況調査について

問合せ

教育課 ☎(81)3906

全国学力・学習状況調査は、児童・生徒の学力や学習状況の一部を把握し、学校における教育活動の充実や学習習慣の改善などに生かすことを目的に文部科学省が実施しています。4月に町内小・中学校で実施した結果について、神奈川県公立学校の平均正答率を基準に、県平均を上回っているもの・下回っているもの(±5%)をまとめました。

①教科に関する調査から

②児童・生徒質問の結果から

●小学生

「人の役に立つ人間になりたい」と前向きに捉える児童が多い一方、家庭学習の時間が「1時間未満」と回答した割合が高い結果となりました。

●中学生

「自分にはよいところがある」といった自己肯定感に関する項目で肯定的な回答が多く見られた反面、「ICT機器を使って情報を整理できる」という質問には肯定的な割合が低い傾向が見られました。

●小中共通

「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した割合が高く、多様な考えを受け入れる姿勢が見られます。一方で、平日にスマートフォンやタブレットでSNSや動画を長時間視聴している割合の高さが共通の課題となっています。

③今後の取り組みについて

中井町子どもたちは、繰り返し学んだ内容の確かな定着や、資料を読み取って根拠を示す力に良さが見られます。「自分と違う意見について考えるのは楽しい」という、前向きな姿勢も見られます。学校では、話し合いの内容などの情報を目的に応じて整理し、自分の考えを文章で表現する力の育成に力を入れます。英語については、「書くこと」を中心に指導を充実させ、4技能のバランスある育成を図ります。併せて、家庭学習の充実にも取り組みます。

	上回っているもの	下回っているもの
小学生	国語 県平均正答率と同程度	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比喩や反復などの表現の工夫に気づくこと ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること ・ 文章の特徴を捉えること
中学生	算数 県平均正答率より低い傾向	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 示された2つの表から、集計に誤りのある項目を見つけ、その根拠を記述すること ・ 直方体の箱の形を構成する面について理解していること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整数と小数の減法の計算をすること ・ 割合と比較量から基準量を求めること
中学生	国語 県平均正答率より低い傾向	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 助動詞の働きについて理解していること ・ 可能の意味を含む表現を捉えること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いを受けて整理した内容を選んだり、自分の意見を書いたりすること ・ 段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫すること
	数学 県平均正答率より低い傾向	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箱ひげ図と四分位数の対応について理解していること ・ 累積度数を求めること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 起こりうる場合を整理して、確率を求めること ・ 同類項の意味を理解していること
中学生	英語 県平均正答率と同程度	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な話題について、事実や自分の考え・気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すこと ・ 目的に応じて、必要な情報を聞き取ること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ったり読み取ったりすること ・ まとまりのある文章を書くこと